

お知らせ

○3年1組の指導体制について

本年度から本校の職員として勤務し、3年1組の担任となった高木淳一先生が、体調不良（原因不明の手の震えによって、板書も、ノートの記入も、採点も、パソコン操作もできなくなった）のため、5月23日（土）をもって致し方なく退職致しました。

その後の3年1組の指導体制については税田雄二教頭先生が担任として、職員で教科分担をしながら指導に当たることとしております。このことについて、23日（土）に3年1組の保護者様には説明させていただいております。今後、担任としてのいい人材が見つければさらに指導体制の変更していくことも考えられます。何卒、ご理解の程、よろしくお願い致します。

学校の教育活動から

○東京・千葉方面への修学旅行！

20日（水）から22日（金）にかけて、6年生の皆さんが東京・千葉方面への修学旅行に行ってきました。

「東京スカイツリー」から東京全体を展望したり、
「国会議事堂（参議院）」で内部の説明を伺ったり、
「日本科学未来館」で最先端の科学の一端を体験したり、
「東京ディズニーランド」で友だちと思いきり楽しんだり、
「キッザニア東京」で様々な職業体験をしたりして、

充実した3日間を過ごすことができました。

大きな怪我をしたり体調不良を訴えたりすることもなく、みんな元気に福岡に帰ってくることができました。この3日間が、6年生の皆さんにとって、小学校生活での忘れられない思い出になってくれたら嬉しく思います。



感じたことから

○見方を変えれば・・・。

6年生の「修学旅行」の2日目は、残念なことに雨に見舞われてしまいました。そして、何とこの日は「東京ディズニーランド」でのグループ活動だったのです。カッパに着替えたり、傘を差したりしながらの活動開始です。せっかくのディズニーランドがかわいそうだなあ・・・と思いつつながら、あるグループの子ども達と一緒に回っていました。するとどうでしょう、様々なアトラクションに入るまでの待ち時間がとても少なかったのです。通常の待ち時間が、60分から90分かかりそうなアトラクションでも20分程度で入ることができたのです。不運な雨と思いきやそれが、良い運に転じたとも考えられます。



何事もそうかもしれませんが、「不運だな」「嫌だな」と思つたことでも見方を変えれば「幸運だった」「良かった」と思えることに転じて捉えることができるかもしれません。

例えば、こんな話があります。二人の靴屋さんが外国へ靴を売りに行きました。外国へ着いてみると、その国の人は誰も靴を履いていません。靴屋の一人は、「この国は誰も靴を履いていないから、この国では靴は売れない、残念だな」と言い、もう一人の靴屋は「この国は誰も靴を履いていないから、たくさん靴が売れる、ラッキーだな」と言いました。まだ、一足も靴を売っていないうちから「残念だな」という不幸な人と、「ラッキーだな」という幸せな人に別れてしまいました。

ディズニーランドの件でも、「雨が降って嫌だな」という気持ちでずっと過ごしていたら、つまらない気持ちが心に渦巻いていたかもしれません。しかし、同じ状況でも捉え方を変えて、「アトラクションをスムーズに回れる」という利点に目を向ければ、楽しい気持ちが膨らむことでしょう。

「あれは嫌いだ」「あれはいやだ」「あいつが悪い」等の文句を言っている人は、つまらないことばかりで「不幸な人」のような気がします。

反対に、「あれも良い」「これも良い」「この人のおかげ」などと良いことをたくさん見つける人は、「幸せな人」だと言えるのかもしれません。

同じ状況下でも、心のもち方次第で「幸せ」は舞い込んでくるように思いました。